

令和4年度

印旛地区教育研究集会

生活科分科会 提案資料

研究主題

自然体験を通して多様に表現し、気づきの質を高める生活科学習

～地域の特色を生かして～



第2部会 玉造小学校

伊東 晴子

## 1 研究主題

自然体験を通して多様に表現し、気付きの質を高める生活科学学習  
～地域の特色を生かして～

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日的な教育課題より

現在、子どもたちを取り巻く社会は急速な情報技術の発展が進んでいる。今後も生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく急速に変化していき、予測困難な時代となっていくであろうと考えられる。こうした変化の一つに、人工知能(AI)の躍進的な進化が挙げられる。人工知能が自ら知識を概念的に理解し、思考し始めているとも言われ、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも多くの変化をもたらすのではないかとの予測も示されている。しかし、人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みである。

このような時代であっても、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

以上のことを踏まえ、生活科の学習においても、児童の生活圏を学習の場とし、それらと直接関わる活動や体験を一層重視していく必要があると考えた。そして、その具体的な活動や体験の中で児童が様々な気付きを得て、それらを多様に表現し考えたり、「見付ける」、「比べる」、「例える」、「試す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行ったりすることを通して、気付きの質を高められるのではないかと考え、本主題を設定した。

### (2) 学習指導要領より

生活科の教科目標は、次の通りである。

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技術を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

本研究では、「見る」、「聞く」、「触れる」、「作る」、「探す」、「育てる」、「遊ぶ」などの具体的な活動や体験を通して感じた楽しさや気付きを多様な方法で表現していく。その過程で、「思考」と「表現」が一体的に繰り返し行われ、気付きの質を高められるだろうと考えた。

### (3) 学校教育目標より

#### 〈学校教育目標〉

心豊かで、たくましく生きる力を身につけた児童の育成

#### 〈目指す児童像〉

〈やさしく〉

○自他を大切にし、仲間と協力する児童

〈かしこく〉

○よく考え、進んで学習する児童

〈たくましく〉

○健康で、最後までがんばる児童

#### 基本方針

知・徳・体の調和のとれた教育活動を、家庭・地域・近隣校と連携して推進する。

#### 重点目標

〈確かな学力〉

◎基礎基本を身につけ、主体的に学ぶ児童を育てる。

◎考える楽しさを味わう児童を育てる。

〈豊かな心〉

◎約束事を守り、協力する児童を育てる。

◎自分も他者も大切にできる態度を育てる。

〈たくましい体〉

◎体力づくりに励み、最後までがんばり抜く力を育てる。

◎健康で安全な生活の習慣化を図る。

〈家庭・地域との連携〉

◎保護者・地域とともに歩む学校づくりを推進する。

生活科の学習において、児童が身近な人々、社会及び自然と直接関わる活動や体験を重視し、児童が自分の思いや願いを生かし、主体的に活動することができるようにしていく。このことは、本校の重点目標である「主体的に学ぶ児童」につながっていく。

また、重点目標〈家庭・地域との連携〉の観点から、地域の特色を生かし、地域の方々との連携を図ることで、具体的な活動や体験の場を設ける。その活動や体験を通して、身近な生活を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとするようになる。そこには、「思考」と「表現」が一体的に繰り返し行われ、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が育成される。また、気付きの質を高めていくこととなる。これらは、本校教育目標の生きる力を身につけた児童の育成につながってくると考える。

#### (4) 児童の実態より

本校は、成田ニュータウンに位置している。学校の周囲には住宅街があり、その他に中学校や高等学校、緑豊かな公園もある。また、同じ学区の中には、印旛沼周辺の水田地帯もあり、そこから通学する児童もいる。このような地域の特色を生かして、毎年、2年生の生活科の学習でザリガニ釣り、5年生の総合的な学習で農業体験など様々な体験をしている。そこには、地域の方々の協力がある。児童が日常生活の中で自然や生命と触れ合い、関わり合う機会が乏しくなっているからこそ、このような活動や体験を大事にしていきたい。そして、このような活動や体験を行うことで低学年らしい思考や認識を確かに育成し、表現し考えることで、気づきの質を高めていけると考えた。

### 3 研究仮説

#### 仮説1

地域の自然環境や人材を活用した活動や体験を取り入れることで、児童が主体的に活動することができ、気づきが生まれるだろう。

児童が具体的な活動や体験を通して、対象と関わり、自分と対象を意識するようになることは、小学校低学年の児童の発達に適している。児童にとってわくわくドキドキするような活動を設定し、児童が対象に自ら働きかけることで、様々な情報を取り出し、表現したいという意欲が生まれる。そのなかに、気づきが生まれると考える。

〈具体的な手立て〉

- 地域の自然環境や人材の活用
- 児童が主体的に活動できるような導入の工夫や計画

#### 仮説2

相手意識や目的意識をもって多様な表現活動を取り入れることで、「思考」と「表現」が繰り返し行われ、気づきの質を高めることができるだろう。

児童は、具体的な活動や体験を通して、自分自身や自分の生活について考え、それを何らかの方法で表現する。その際に、児童は相手意識や目的意識に基づいて表現内容や表現方法を考える。そして、表現をする過程で思考が働き、その思考と表現が繰り返し行われることとなる。そこで生まれた一人一人の気づきが、交流することで共有され、確かなものとなったり、新たな気づきが生れたり、様々な気づきが関連付けられたりする。これによって気づきの質が高まっていくと考える。

〈具体的な手立て〉

- 相手意識「だれに」目的意識「なんのために」の明確化
- 多様な表現方法の工夫（他教科との関連的な指導）
  - ・計画や振り返りのワークシート、絵日記
  - ・図画工作科での絵の取り組み

- ・お礼の手紙
- ・体育科「わくわくどうぶつランド」での表現

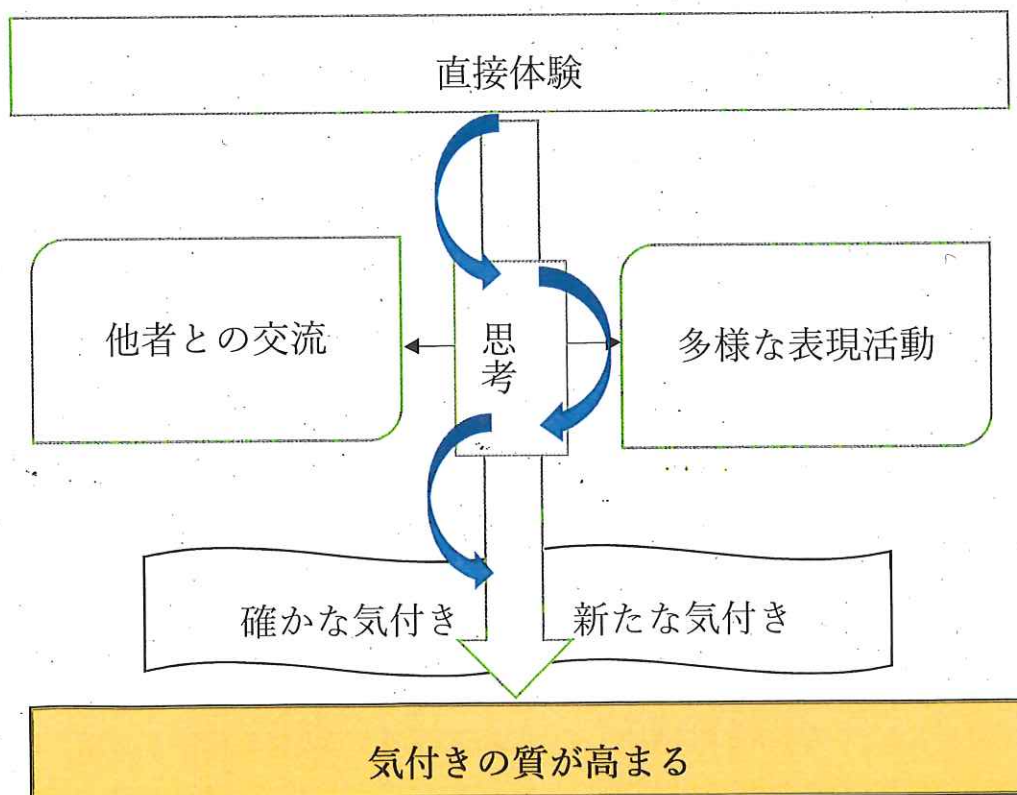
○交流の場の工夫

- ・地域の方との交流
- ・他学年との交流（インタビュー活動）
- ・グループ活動での交流
- ・タブレットを活用した交流（ロイロノートの活用）
- ・タブレットで記録をする。（カメラで記録をとる。）
- ・掲示物を使っての交流（付箋や掲示板の活用）

「気づきの質を高める」とは…

【気づき】

- 対象に対する一人一人の認識
- 児童の主体的な活動によって生まれるもの
- 知的な側面だけでなく情意的な側面も含まれる
- 次の自発的な活動を誘発するもの



#### 4 授業実践例（2年）

\*本実践は、令和3年度2年生の実践をもとに、令和4年度2年生の実践を行い、授業改善や仮説の検証を行った。

##### (1) 単元名 「生きもの はっけん」(16時間)

##### (2) 単元について

###### ①単元観

本単元では、児童が継続的に生き物を飼育するなかで得る、身近な生き物への興味・関心や気付きを通して、自ら働きかけ、生命を大切にすることができるようにすることを目指している。

日常生活のなかで、自然や生命と触れ合う機会が少なくなっている児童たちにとっては、生き物と繰り返し関わることは、生き物への親しみをもち、生命の尊さを実感するために大きな意義がある。

生き物との活動を通して、生き物は生命をもっていることに気付いていく。また、生き物と自分との関わりのなかで、自分自身に対する気付きが生まれ、そこから責任感や相手の立場に立った見方や考え方を育てていく。

###### ②児童の実態

第2学年の児童は、生活科の学習が好きな児童が9割近くを占める。また、生き物が好きな児童も7割以上いる。その反面、生き物を飼って育てた経験がある児童は半数程度である。また、本単元で関わるザリガニに関しては、多くの児童がどんな生き物であるのかわからないのが現状である。

また、生活科の学習において、植物を育てるなかで、花が咲いたり実がなったりすることに楽しさを感じている児童が多い。今までの生活科の学習を通して、自分と対象との関わりは経験してきているが、それらを表現したり、友達と交流したりする経験が不足している。

###### ③指導観

本単元の学習では、児童がザリガニをはじめとする様々な生き物を触れ合う体験を通して、生き物の不思議に気付いたり、生命の大切さを感じたりできるようにしていく。そして、その経験が今後の生活のなかでの生き物との関わりを広げていくきっかけにしていきたいと考える。

玉造小学区の中でも八代地区という水田や用水路が多くある地域の特色を生かし、そこで生活している人たちの協力を得ながら本単元の学習を進めていく。

生き物との関わりの中での気付きを、自分だけのもので終わらせるのではなく、表現と思考の繰り返しや、他者との交流によって、気付きをより確かなものにししたり、新たな気付きを生んだりすることをねらいとしたい。そのために、様々な表現活動や交流の場を意図的に設けた授業づくりをしていくこととする。

### (3) 単元の目標

○動植物は、生命をもっていることや成長していることに気付いている。(知識及び技能の基礎)

○動植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。

(思考力、判断力、表現力等の基礎)

○1年生での飼育・栽培の経験を生かして、動植物に親しみ、大切にしようとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

### (4) 仮説との関わり

#### 仮説1

地域の自然環境や人材を活用した活動や体験を取り入れることで、児童が主体的に活動することができ、気付きが生まれるだろう。

本単元では、玉造小学校の学区である八代地域の農家の方に、協力をいただき、水田地帯でのザリガニ釣りという活動を取り入れる。導入では、身近な校庭や公園などでの生き物とのふれあいの経験を話し合う。そこから地域へと視野を広げ、児童の多くはなかなか行ったことがないであろう水田地帯の生き物まで目を向けさせる。そして、「行ってみたい。」「やってみたい。」「育ててみたい。」という主体的な活動へとつなげていく。そのなかで、ザリガニやその捕まえ方、飼い方などへの関心が高まり、気付きが生まれると考えた。

#### 仮説2

相手意識や目的意識をもって多様な表現活動を取り入れることで、「思考」と「表現」が繰り返し行われ、気付きの質を高めることができるだろう。

ザリガニ釣りという活動を通して、児童の気付きがある。その気付きを表現し思考することや、交流する場を意図的に設けることで、児童の気付きが深まったり広がったりし、結果的に気付きの質も高まっていくであろうと考えた。

本単元では、振り返りカードや発見カードを活用して、児童の気付きを確かなものにしていく。また、それらを学級や異学年などで交流することで、お互いの気付きが関連付けられ、より確かなものになったり、新たな気付きが生まれたりする。また、お世話になった農家の方へのお礼の手紙を通して、生き物だけではなく、その地域で生活したり働いている人々の思いに気付いたり、自分自身の生き物への思いなどにも気付くことができるであろう。

また、ICTの効果的な活用を行っていく。タブレットを使って、発見した生き物を記録したり、発表や交流をしたりする。また、調べ学習の際のインタビューなどでは、記録の手段としてタブレットの活用をする。ザリガニ釣りでお世話になる渡邊さんとのオンラインでの打ち合わせなどでも効果的に活用をしていきたい。

その他にも、図画工作科や道徳科、体育科など、他教科との関連的な指導も行えると考えた。

(5) 実践記録

「生きもの はっけん」 ～生きて いるって すごい!～ (16時間)

小単元	時配	学習内容と児童の様子	☆仮説との関連
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">生きているってすごい!</p>	1	<p>「どんな生きものがいるのかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までに見つけたことのある生き物をグループで発表し合い、付箋で学区地図に貼った。友達と一緒に発見した生き物やその場所を確かめながら活動した。</li> <li>・ロイロノートを活用し、それぞれのグループの学区地図を見合い、気づきを交流した。</li> <li>・実際に前庭に出て、生き物を探し、タブレットに記録し、ロイロノートを使って交流をした。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">☆仮説との関連</p> <div style="text-align: center;">  <p>地図に見つけた生き物を付箋で貼っていった。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ロイロノートでそれぞれのグループの発見を共有した。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>☆それぞれのグループの気づきを、グループで出し合ったり、ロイロノートで交流したりしたことにより、同じ気づきに共感したり、友達の気づきとの違いを知ることができた。また、八代地区で見られる水辺の生き物に新しく気付くことができた。(仮説2)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>見つけた生き物をタブレットで記録した。</p> <p>☆身近でなかなか見つけられない水辺の生き物に興味関心が高まった。(仮説1)</p> </div>



「見つけたよ！かってみたいな」

- ・地域でザリガニ釣りができることを知り、前時を振り返りながら、ザリガニ釣りの計画を立てた。
- ・ザリガニについて知っていること、もっと知りたいことを明確にし、インタビューなどを通してザリガニ釣りへの準備を進めた。



ザリガニの持ち方も教わった。



3・4年生へのインタビュー



☆多くの児童は、昨年度ザリガニ釣りに行った3年生へのインタビューを通して、知りたいことを調べていった。そして、ワークシートに、ザリガニやザリガニ釣りの気付きを記録した。(仮説2)また、この活動を通して、中学年との連携を図るとともに、ザリガニ釣りへより一層意欲を高めることができた。(仮説1)

- ・ザリガニ釣りに行き、実際にザリガニを釣ったり、初めて触ったりした。渡邊さんにも、ザリガニの釣り方などを教わり、とても生き生きと活動した。今年はザリガニが例年ほどいないようであったが、すみかに隠れているザリガニを見つけたり、そのほか

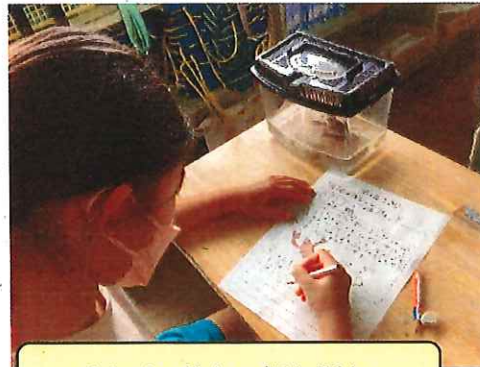


のエビやメダカなども見つけたりした。



初めてザリガニを持てた。

☆ザリガニ釣りでは、事前に学習したことをもとに、ザリガニのすみか、釣り方、ザリガニの持ち方、種類や飼い方、えさなど、それぞれの児童が考えながら自ら主体的に活動した。(仮説1)



ザリガニ釣りの振り返り。



1年生を呼んで、見せたり触らせたりしてあげた。

☆ザリガニ釣り後の振り返りでは、ザリガニへの気付きだけではなく、ザリガニの気持ちを想像したり、ザリガニに対する自分の思いを豊かに表現したりする児童が多くいた。(仮説2)

2

「大切にするよ」

- ・ザリガニをはじめ、いろいろな生き物の飼い方を調べたり、確認したりして、すみかを作った。



すみかを本で調べた。




資料を大型 TV に映しながら  
飼い方を説明した。



生き物コーナー

☆ザリガニの飼い方を調べた。本を中心にグループで調べ、ワークシートにまとめた。また、タブレットを活用して、必要な資料をカメラで撮影し、提示しながら発表し合い、全体に気づきを広げることができた。(仮説2)

	2	<p>「生きもののひみつはっけん」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物が成長する様子を観察し、「はっけんカード」に記録した。</li> <li>・「はっけんカード」を見合い、付箋を使って気づきを交流するなかで、友達の発見を知ったり、自分自身を振り返ったりした。</li> </ul>	 <p>発見カードを掲示して気づきを共有した。昨年度の自由研究なども掲示した。</p> <p>☆ザリガニの観察をして、発見したことを「はっけんカード」に絵と言葉で表現した。また、友達と発見したことの交流を行い、吹き出しの付箋を使って感想を伝え合った。廊下に掲示して、異学年の児童も含め、友達同士の気づきを広げることができた。(仮説2)</p>
はっけん 雨の日に	1	<p>「雨の日を楽しくあんぜんに」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨の日の自然や生活の様子について話し合い、安全で快適な過ごし方について話し合う。</li> </ul>	
さいばい 花やさいの大きくなる ひみつはっけん②	2	<p>「おいしそうなやさいができた！」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫する野菜を決め、収穫する。</li> <li>・収穫した野菜のおいしい食べ方を考え、発表し合う。</li> </ul>	
はっけん かんどう 夏休み	(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫した野菜を家族と一緒に調理し、食べる。(夏休みの課題)</li> <li>・食べたことをカードにまとめる。</li> </ul>	
	1	<p>「わくわくするね夏休み」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みにしたいことや楽しみなこと、がんばりたいことを話し合う。</li> <li>・夏休みに気をつけることについて話し合う。</li> </ul>	

【他教科との関連的な指導】

教科	学習活動
国語科	<p>【お世話になった渡邊さんにお礼の手紙を書こう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ザリガニ釣りでお世話になった渡邊さんに、心を込めて感謝の気持ちを手紙に表現した。</li> </ul>
体育科	<p>【わくわく動物ランド】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生き物などを体で生き生きと表現した。音楽に合わせて動いたり、カードをめくって書かれている生き物を友達と表現したりした。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">ザリガニなど、いろいろな生き物を身体で表現した。</p>
図画工作科	<p>【ザリガニの絵】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ザリガニ釣りや、ザリガニを育てた経験をもとに、ザリガニの絵を描いた。実際のザリガニの様子を見たり、経験を思い出したりして、楽しみながら絵に表現した。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">つったよザリガニくん</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">かっこいいザリガニ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">みんなにやさしいザリガニくん</div> </div>

【ICTの活用】

◇タブレットのカメラを使って、生き物の記録をした。



◇「ロイロノート」を使って、見つけた生き物について気付きを書き込み、共有した。



見つけた生き物の写真に、ペンで気付きを記入して、提出ボックスに送った。それを見童が見合ったり、比較検討したりした。

◇「生き物のすみか調べ」では、必要な絵や写真などをカメラで撮影し、提示しながら発表した。



◇3年生へのインタビューは、動画で記録したことで、大事なことを確かめたり、見直したりすることができた。



ザリガニの持ち方を教えてくれた。動画でも記録した。

(6) 児童の変容

仮説 1

地域の自然環境や人材を活用した活動や体験を取り入れることで、児童が主体的に活動することができ、気づきが生まれるだろう。

児童 A

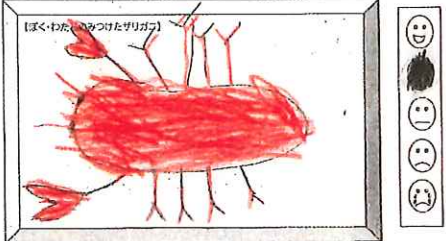
「生きものはっけん」ふりかえりカード

2年1組

◇「生きものはっけん」の  
学しゆうの感想

◇気づいたこと・はっけんしたこと
◇うれしかったこと・楽しかったこと
◇もっと知りたいこと・やりたいこと
◇その他


生きもののかんさつをしてみたらすきだったのしかった。かりが二についてもっとしりたかった。まはにかつたらたけいかんさつしてみたらあつとすきに なれた。もういかいかりが二つにいきたはつ



いきもの はっけんカード

◇みんなにつたえたいこと!!

はっけんしているのを見たらよ



はっけんしたよ

さいしよは二つがたけいさわれるよつになつた。うれしうて

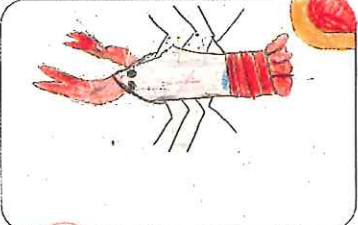
生き物が苦手な児童であったが、体験を通して生き物への関心が高まったり、ザリガニの様子をよく観察し、成長や変化に気付いたりすることができた。

児童 B・児童 C

ザリガニつり

7月6日(金)天気は ☀

名前 \_\_\_\_\_




ザリガニをついてみるかたはきょうきょうにきょうがたててすきに なれた。まはにかつたらたけいかんさつしてみたらあつとすきに なれた。もういかいかりが二つにいきたはつ

さくらがたててすきに なれた。まはにかつたらたけいかんさつしてみたらあつとすきに なれた。もういかいかりが二つにいきたはつ

ザリガニつり

7月8日(日)天気は ☀

名前 \_\_\_\_\_



ついでにザリガニをついてみるかたはきょうきょうにきょうがたててすきに なれた。まはにかつたらたけいかんさつしてみたらあつとすきに なれた。もういかいかりが二つにいきたはつ


ついでにザリガニをついてみるかたはきょうきょうにきょうがたててすきに なれた。まはにかつたらたけいかんさつしてみたらあつとすきに なれた。もういかいかりが二つにいきたはつ

学習への苦手意識が強い児童であるが、生まれて初めての経験に感動をしていた。また、生き物を間近に見たことで、細かいところに気付いたり、生き物を大切にしようという気持ちをもったりしていた。

児童 D

いきもの はっけんカード  
 ◇みんなにつたえたいこと!!

ザリガニが釣れたよ!!



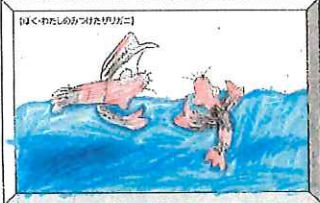
びっくりして、おどろいて、  
 くれたザリガニが、  
 きれいで、おもしろい。  
 わたしは、おもしろい。  
 わたしは、おもしろい。

「生きものはっけん」ふりかえりカード  
 2年1組

◇「生きものはっけん」の  
 学しゅうの感想

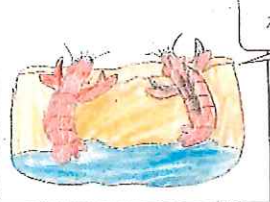
〇気づいたこと・思ったこと  
 〇うれしかったこと・楽しかったこと  
 〇もっと知りたいこと・やりたいこと  
 〇その他

わたしはザリガニが釣れたよ!!  
 みんなが釣ってくれてくれて、  
 みるのたのしくなりました。



いきもの はっけんカード  
 ◇みんなにつたえたいこと!!

ザリガニが釣れたよ!!



わーこわい。  
 ザリガニは  
 うしろがザリガニ  
 だよ。ずりずり。

ザリガニ釣り当日は、怖くなってしまい欠席した。しかし、学校で友達が釣ってきたザリガニを観察していくうちに、生き物への恐怖心もなくなり、関心が高まった。また、生き物に愛着をもって接したり、生き物の様子に気付いたりすることができた。

児童 E

「生きものはっけん」ふりかえりカード  
 2年1組

◇「生きものはっけん」の  
 学しゅうの感想

〇気づいたこと・思ったこと  
 〇うれしかったこと・楽しかったこと  
 〇もっと知りたいこと・やりたいこと  
 〇その他

2年生がわたしたちが釣ったザリガニを  
 さげてよるこんでくれたわたしもうれしい  
 です。こんどは1年生が2年生になって  
 ザリガニついでくときのアドバイス  
 かんぶんはいはいしんじかず、すいらくじう  
 ほうえんを本當につりに行か方が  
 わからないこともわかりました。



いきもの はっけんカード  
 ◇みんなにつたえたいこと!!

ザリガニがこうぐんする時ばかりです。



ぼくはぼく何でもたべ  
 たいしんじかず、すいらくじう  
 の中で、このかきかき  
 ザリガニがある  
 時はザリガニが  
 水面にうかぶよ。

実際の体験のよさを感じ取っている。また、単元全体を通して、多くの気づきを得たり、友達と共有したりする場面が多く見られた。



仮説2

相手意識や目的意識をもって多様な表現活動を取り入れることで、「思考」と「表現」が繰り返し行われ、気づきの質を高めることができるだろう。

児童 F

ザリガニのかい方しらべ

◇しらべの方法

本

◇しらべたこと

ザリガニをつくるには、あらいすから水をのなかに石も2こ入れる。ふたのたて蓋一つおし、くわつ。えさをおく皿、すなを下に入れる。いらなくなつた、小さいえさは、

小さい、1〜2月

間水かえをする。

ろかそうしをする。

えさニボシ、するめ。

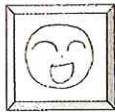
とでほうれんそう。

とん、さかなのきりみ。



◇学しゅうのふりかえり

ともだちのは、ひい、うきいて、た、くさんしりな、か、た、こと、を、た、く、さん、し、た、か、ら、そ、れ、を、つ、か、て、ザ、リ、ガ、ニ、を、そ、だ、て、た、い、て、す。



ザリガニのかい方がよくわかりました。文に絵でわかりやすくおしめしました。

ザリガニつり

7月8日(日)天気

◇ザリガニつりのようすやおもて  
◇ザリガニつりのほつけん！  
◇ザリガニさんへのメッセージ  
◇そのほかこれからのこと...

ザリガニつりに行けてとてもうれしか、た、です。また行きたいです。ザリガニは、大きいザリガニと、小さいザリガニをつりました。わたしは、ちん、と、せ、め、を、し、て、ザ、リ、ガ、ニ、を、な、ら、い、か、せ、た、い、て、す。



ザリガニを、けん、ごう、に、そ、だ、て、た、い、て、す。せ、め、て、1、年、は、い、き、て、ほ、し、い、て、す。ザ、リ、ガ、ニ、は、今、つ、ら、れ、た、け、と、あ、た、ら、い、い、え、に、行、き、た、い、な、し、思、て、い、る、と、お、い、ま、す。も、あ、た、し、は、ザ、リ、ガ、ニ、を、つ、て、か、わ、い、そ、し、思、い、ま、し、た。そ、の、か、あ、り、り、ほ、に、そ、だ、て、た、い、て、す。

いきものはっけん

◇みんなにつたえたこと

ザリガニは、エサをひいてきれいとき、水でふくふくとする。



エサをい、は、い、ち、う、た、い、い、。

2ひきつれて、い、れ、か、た、で、す、り、は、こ、ろ、か、て、あ、い、た、い、て、す。

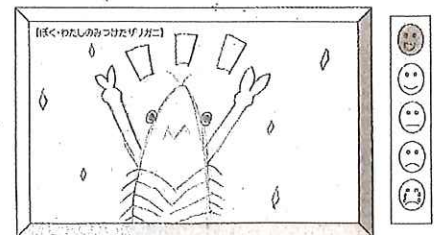
「生きものはっけん」ふりかえりカード

2年1組

◇「生きものはっけん」の学しゅうの感想

◇気づいたこと-はっけんしたこと  
◇うれしかったこと-楽しかったこと  
◇もつとりたいこと-やりたいこと  
◇そのほか

わたしは、ザリガニが、こん、だ、あ、さ、い、は、し、に、い、る、の、は、ひ、く、り、し、ま、し、た。ザ、リ、ガ、ニ、を、か、う、に、つ、れ、て、い、ま、ま、で、し、ら、な、か、た、さ、と、が、た、く、さん、し、る、よ、う、に、な、り、ま、し、た。あ、た、し、は、ザ、リ、ガ、ニ、を、か、う、の、が、う、れ、い、い、で、す。ま、た、い、き、た、い、で、す。



単元を通して、意欲的に活動することができた。調べ学習で得た知識に加えて、実際にザリガニ釣りを体験し、生き物を目の前で見たことで、細かなザリガニの様子の変化や、生き物を大切にする自分の思いにも気付くことができた。

児童 G

### ザリガニのかい方しらべ

◇しらべの方法

本

◇しらべたこと

ザリガニは、1〜2週間すると水かたご  
はじきます。水をかえま。そこにはいた卵が  
小石の間にはこの残りやじんかみまを  
かき、水をかき  
はからせれば  
きれいにします  
その卵や小石  
をわきに集めて  
（卵をみつけたら）



◇学しゅうのふりかえり

ザリガニをかうにわ下にいりた  
んだらおもった。ザリガニはうん  
ちをばるうまいためにかき  
た後にはうんちを火で焼く作  
たがた。これはザリガニと

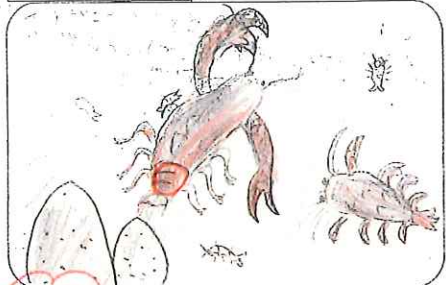


### ザリガニつり

7月7日(火)天気 はれ


◇ザリガニつりのよさやあそび  
◇ザリガニについてのほつけん!  
◇ザリガニさんへのメッセージ  
◇今の気持ちを絵であらわすこと...

名前




ザリガニをつったときはかたごをわきに  
はき、きれいな水をかきか  
てた。水をかきか  
てた。水をかきか  
てた。水をかきか  
てた。水をかきか  
てた。水をかきか  
てた。水をかきか  
てた。水をかきか

いきものはつけんカード  
◇みんなにつたえたいこと!!




ザリガニは、うんちをばるうまいためにかき  
た後にはうんちを火で焼く作  
たがた。これはザリガニと

いきものはつけんカード  
◇みんなにつたえたいこと!!




ザリガニは、うんちをばるうまため  
にかきた後にはうんちを火で焼く  
作たがた。これはザリガニと



ザリガニは、うんちをばるうまため  
にかきた後にはうんちを火で焼く  
作たがた。これはザリガニと

「生きものはつけん」ふりかえりカード  
2年1組

◇「生きものはつけん」の学しゅうの感想



ザリガニのおしりの下には、うんちのものがあ  
りました。は、うんちをばるうまためにかき  
た後にはうんちを火で焼く作たがた。これは  
ザリガニと

常にザリガニの気持ちを受け止めながら、自分の思いも重ねて学習に取り組むことができた。また、自分の発見や思いを意欲的に表現することで、周りの児童へ気付きを広げることができた。

## 5 成果と課題

- ・地域の特性を生かしたり地域の方の協力を得たりして、実際にザリガニつりを体験したことで、児童が主体的に活動することができた。幼少期にこのような実体験や成功体験を積み重ねていくことが、今後の児童の成長につながっていくと考える。家庭や地域でなかなかこのような経験が減ってしまっているという現状からも、貴重な体験活動となった。
- ・教科書や図書資料、インタビューなどで得た情報と実体験とを結びつけることができた。そのなかで、生き物の様子や成長、変化に気付いたり、生き物の気持ちを想像したり、生き物に対する自分の思いをもったりすることができた。
- ・単元を通して、ワークシートを活用し、調べたことをまとめたり、自分の気付きや思いを表現したりする活動を意図的に設けた。また、ワークシートには視点を与えた。それによって、生き物の様子への気付きや自分の思いに気付いたり、友達の気付きや思いに共感したり、自分の気付きを広げたりすることができた。また、それらの交流の手段として、タブレットのカメラやロイロノート、吹き出しの付箋の活用が有効であった。
- ・1年生へのザリガニの紹介を通して、自分の気付きを伝えたり、来年度に向けた交流を行ったりすることができた。また、3・4年生への事前インタビューを行ったことで低学年から中学年への連携、生活科から総合へのつながりを意識することができた。事後のアンケートでは、「調べること」「友達と話し合うこと」「新しい発見をすること」などに学習の楽しさを感じる児童が増え、総合的な学習への土台につながったと感じる。

△児童の気付きを生み、より質を高めていくためには、単元のなかで行う表現活動や、その手段、児童に与える視点を明確にして単元計画をしていく必要がある。

△生活科におけるICTの活用については、今後も試行錯誤し、効果的に使っていけるようにする。

△地域の人材の活用を今後も続けていくため、地域の方々との交流、地域コーディネーターとの連携を図る必要がある。

△アメリカザリガニは外来種であり、生態系への影響が深刻なため、「外来種被害予防三原則」などもあわせて知らせ、最後まで責任をもって飼い続けるよう指導や支援をする。また、ザリガニ以外にも地域の生き物が他にいないかなど、新たな教材開発を続ける。

# ザリガニについて どんな生きもの！？

名まえ( )

◇まず、ザリガニについてしってることはなんだろう？

◇しりたいことは？

◇だれにきく？

◇インタビューメモ(タブレットでのしゅざいも)

◇学しゅうのふりかえり

# ザリガニのかい方しらべ

名まえ( )

◇しらべる方法

◇しらべたこと

--	--

◇学しゅうのふりかえり

いきもの はっけんカード

名まえ( )

◇みんなにつたえたいこと！！

「生きものはっけん」ふりかえりカード

年 組 名前( )

◇「生きものはっけん」の  
学しゅうの感想

○気づいたこと・はっけんしたこと  
○うれしかったこと・楽しかったこと  
○もっとしりたいこと・やりたいこと  
○その他

.....

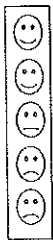
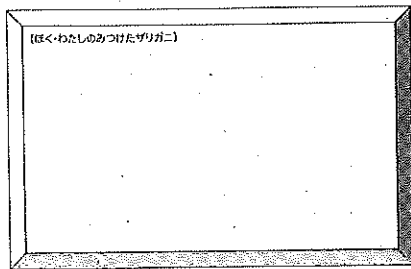
.....

.....

.....

.....

.....



わくわくどうぶつランド

名前( )

\*ペアの友だちとおどったものに○をつけましょう。

ぞうの水あび	のみをかゆがる ゴリラ	すいすいおよぐ かえる
バツタの 大ジャンプ	むちゅうで バナナを 食べつづけるサル	いそぎんちゃく おどるの大すき
電気くらげだ ビリビリビリ~	あばれるワニ	ザリガニの おさんぽ
ライオンと 入びのたたかい	ちょうちよを ねらう大グモ	こざるの おにごっこ

\*楽しかったことや気がついたこと、思ったことを書きましょう。

.....

.....

.....

